

# 育成年代におけるリーダーシップについて

小川 晴生 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 望月 聡

キーワード：リーダーシップ，育成年代，優勝経験

## 1. 緒言

リーダーシップというのは周りを現段階から先へと発展させる力だとされている。つまりリーダーにはリーダーシップという能力が必要不可欠なものである。育成年代で特に小学生の内にリーダーシップを獲得できれば将来一流の選手として活躍できる可能性が広がるのではないかと考えた。

育成年代の選手のリーダーについての考えを調査し、選手の考えるリーダー像や、様々な考えからどのようなことがリーダーシップ獲得に関係しているのか、また優勝経験がリーダーシップに関係するのかを明らかにし、自身にフィードバックして指導力向上させることを目的とする。

## 1. 研究方法

本研究の対象者はサッカーチームに所属している2チーム19名の小学校6年生。一つは小さな大会などでも優勝経験が一度もないチームをチームAとし人数は10人である。もう一つは色々な大会で優勝経験があるチームでチームBとし、人数は9人である。アンケートを用いて調査を行った。

## 2. 結果と考察

理想のリーダーについての質問からチームを引っ張っていけるリーダーの意見が多かった。リーダーに必要な能力はなにかという質問からチームをまとめられる力が必要という意見が多かった。このことから育成年代の小学生のリーダー像というものはチームを引っ張っていける力があり、まとめる力のあるリーダーというイメージであるのではないかといえる。

リーダーになりたいと思うかという質問では意見に差が見られ、優勝経験のあるチームBでは約66%がリーダーになりたいと考えていて、チームAでは約30%に収まったという結果になった。リーダーは誰よりも優れているべきであるかという質問では、チームAでは約80%がそう思うと答えたのに対して、優勝経験があるチームBは55%がそう思わないという意見で差があった。全体として見ると約63%の選手が誰よりも優れているべきと答えている。このことから選手として上手いことがリーダーに必要な能力だと考えられているといえる。

## 3. まとめ

優勝経験があるチームとないチームでアンケート結果に差が見られたものがあり、優勝経験はリーダーシップに関係していると考えられる。

スポーツのリーダーには選手として優れていないといけないという先入観がまだまだ存在し、その先入観がリーダーシップを発揮することの妨げになっていると推測でき、リーダーシップを獲得するためにはその先入観をなくすということがまず必要であると考えられる。

## 引用・参考文献

菖蒲 誠(2013)シュンペーターにみるリーダーシップ論. 立命館国際研究. 26-12:185-202  
岩田 松雄(2012)『「ついていきたい」と思われるリーダーになる51の考え方』. 株式会社サンマーク